

文字摺通信

第 102 号
2025年12月15日
発行:文字摺歴史文化社

〜歌は世につれ、世は歌につれ〜 昭和の歴史は歌謡曲の歴史

第2回 元祖歌謡曲「東京行進曲」誕生

昭和4年に発売された「東京行進曲」は昭和初期の文化がいつ詰まった歌謡曲でした。菊池寛の同名小説が映画化され、その主題歌に用いられました。日本初のタイアップ曲でした。この「東京行進曲」レコードは25万枚以上売り上げ大ヒットとなったのですが、ちなみに、キャンディーズのデビュー曲「年下の男の子」(昭和50年発売)の売り上げは26万枚です。

日本ビクターが昭和初年に売り出した卓上普及型蓄音器の値段は、45円から65円。卓上ゼンマイ式が100円でした。また昭和4年に国産第一号の電気蓄音機が発売されましたが、値段は850円でした。レコード盤はSP盤で、昭和7年頃の値段は1枚1円20銭でした。かけそばの値段が1杯10銭(昭和9年)でした。現代のかけそば500円とすると、5000倍になります。とすると、レコードも1円20銭×5000倍=6,000円。卓上ゼンマイ式の蓄音器が50万円に相当します。そうした状況での25万枚の売り上げですから、空前のメガヒット作品になったわけです。



※この頃のレコードは78回転でSPレコードと言われます。SPレコードは“standard playing record”の略です。よく、LPレコード“long playing record”に対して“short playing record”略と勘違いされることがあります。なお、SPレコードの録音時間は3分半～4分ほどですので、長時間かかるクラシックなどを聞く時には、両面レコードで何枚にもなり、何度かひっくり返したり、次の盤と取り換えたりすることが必要でした。

では「東京行進曲」とはどんな歌謡曲だったのでしょうか。

作詞：西條八十 作曲：中山晋平 歌：佐藤千夜子

①昔恋しい銀座の柳 仇な年増を 誰が知ろ

ジャズで踊って リキュルで更けて 明けりゃダンサーの涙雨

②恋の丸ビル あの窓あたり 泣いて文書く 人もある

ラッシュアワーに 拾った薔薇を せめてあの娘の 思い出に

③広い東京 恋ゆえ狭い 粋な浅草 忍び逢い

あなた地下鉄 わたしはバスよ 恋のストップ ままならぬ

④シネマ見ましょか お茶飲みましょか いっそ小田急で 逃げましょか

かわる新宿 あの武蔵野の 月もデパートの 屋根に出る